

教員の「働き方改革」～これまでとこれから～

これまでの主な取組み

●校務支援システムの改善・活用促進 (平成26年～)

従来は帳票類で行っていた児童・生徒の出欠や成績、保健などの事務処理をパソコン入力することにより、学校単位のネットワークシステムでの管理・運用が可能となりました。

●スクール・サポート・スタッフの活用 (平成30年～)

教員からの指示を受けて、学習プリントなどの印刷・配付準備、授業準備や採点の補助などの簡易な作業を行うスタッフ(臨時職員)の配置を進めています。



(スクール・サポート・スタッフイメージ)

●部活動での外部指導員の導入 (平成18年～)

中学校の教員の8割以上が部活動の顧問をしており、運動部では9割以上の教員が土日のいずれかを部活動の指導にあてています。そのため、指導可能な知識や技術を備えた外部指導員の果たす役割に期待が寄せられています。

これからの主な取組み

～区立の小・中学校に通う子どもの保護者の皆さまへ～

区教育委員会は教員が健康を損なうことなく、夢と希望と働きがいを子どもたちと向き合い、未来を担う子どもたちにより充実した学びを提供できるよう「豊島区学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教員の働き方改革を進めています。改革の実行にあたり、保護者をはじめとする地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

●学校閉庁日を導入します

学校閉庁日を設け、教員の休暇取得を促進します。教員は終日不在となります。
 令和元年度 夏季休業日…8月13～16日 冬季休業日…12月27日

●部活動での外部指導員の活動を促進します

地域の大学やスポーツ団体と連携し、部活動での外部指導員のさらなる活用促進を図っていきます。

●学校への出退勤システムを導入します

教員の勤務時間をデータで記録・管理することにより、各教員のマネジメント意識を高めるとともに、長時間労働が続く教員に対して校長・副校長の管理職が客観的なデータを示し、適切な指導・助言を行っていきます。



(出退勤システムイメージ)

新たな教育課題にも対応

① 新学習指導要領への対応

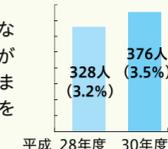
- グローバル社会への対応に向けて、「英語教育」を小学校から教科として扱うようになりました。実際に英語を使ったコミュニケーションを行うことにより、国際化社会を生き抜く児童・生徒の育成を進めています。
- 授業のなかでタブレットなどのICT機器を取り入れることで、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付け、高度情報社会に必要な知識などを育みます。
- 「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実現に向けた取り組みを進め、子どもたちの「生きる力」を育みます。



② 多文化共生社会の推進

- 増加傾向にある外国籍児童・生徒など、多様な背景を持つ子どもたちが安心して学校生活を送れるようさまざまなツールを活用し、相互理解を深めることができますようにします。

区立小・中学校の外国籍児童・生徒数の推移(5月1日時点)



③ 支援を要する児童・生徒への対応

- いじめ・不登校、身体の不自由など支援を要する児童・生徒へスクールソーシャルワーカーなどと連携してきめ細やかな対応を行っています。

DATA ～長時間労働の実態～

区教育委員会は「豊島区学校における働き方改革推進プラン」の策定のなかで、計画がより実効性のあるものとなるよう、区立小・中学校に勤務する教職員を対象に勤務実態調査などを行いました。

① 教員の勤務実態

教員の正規勤務時間は7時間45分であることから、平日1日あたり4時間ちかく時間外勤務をしています。また、過労死ラインとされる週あたりの在校時間が60時間を超える教員が全体の4割を超えていることが明らかになりました。

区分	一般教員の在校時間(平均)			1週間あたりの在校時間
	平日	土曜日	日曜日	
小学校	11時間05分	2時間38分	1時間07分	59時間17分
中学校	10時間46分	4時間05分	1時間26分	59時間00分

※1週間あたりの正規勤務時間38時間45分

(参考)週あたりの在校時間が過労死ラインとされる60時間を超える教員の割合

区分	豊島区	東京都	国
小学校	41.7%	37.4%	33.5%
中学校	42.9%	68.2%	57.6%

② 授業以外にかかる時間(上位3件)

教員の1週間の業務では、授業時間を除くと、小・中学校共通して教員の本来業務である「成績処理」「授業準備」と子どもの能力・資質の向上のために多くの時間を費やしています。

	小学校	中学校
1位	成績処理 10時間51分	成績処理 10時間08分
2位	授業準備 6時間02分	授業準備 7時間39分
3位	児童指導(集団) 4時間07分	部活動・クラブ活動 5時間05分
参考(授業時間)	19時間50分	15時間23分

※1週間あたりの勤務時間



「チーム学校」に向けた地域との連携と協働

今日の先生は「地域のみなさん」

今回紹介する「NPO法人はばたけ千早 はたけ部会」は、千早小学校の授業にボランティアとして参加しています。保護者や地域の方々が学校の教育活動に様々なかたちで関わり、子どもたちのより豊かな学びにつながるような仕組みを今後はほかの学校でも検討していきます。



▲畝を作っていたら児童たちがやって来ました。みんな、これから何が始まるのか興味津々。



▲さつまいもの苗の植え方を熱心に聞いています。

▶みんなで横に並んで苗を植えます。自然と歓声が起こりました。

NPO法人はばたけ千早 はたけ部会 中橋一雄さん、伊藤芳夫さん

私たちが普段、区民ひろばで活動するなかで大切にしているのが「世代間交流」です。今日は学校からの要望に応えるかたちで2年生の授業のお手伝いに来ました。今日の経験が、子どもたちのなかに残ればいいなと感じています。畑をとおして子どもたちと交流していくなかで感じる手応えは通学路で「畑のおじさん!」と声をかけてくれた時ですね。見守り活動で私たちの顔を覚えてくれているというのは、子どもを見守るうえでとても大切なことですから。



2学年担任 高橋祐樹先生

普段の授業のなかにも、地域の方が参加して知識や経験などを子どもたちに直接伝えてもらえるというのは非常にありがたいと感じています。子どもたちが色々なことを体験し、学んでいくなかで知識が活きたものとして根付いてくれたらと願っています。



▲植えた苗がすくすくと育つよう今後の管理の仕方などを聞いています。

外部指導員の活躍で部活も充実

「教員の働き方改革」のなかでさらなる活用促進を図っていく部活動の「外部指導員」。池袋中学校バドミントン部では実技指導や大会への引率などを「外部指導員」も顧問の先生と一緒に担っている、ということをお話を伺いに行きました。



◀知識や経験を活かして、その日の練習メニューはどうするか?を考えます。

▲掛け声とともに練習にも熱が入ります。

▼実際にラケットを持ち、生徒とプレーすることも。

池袋中学校バドミントン部 顧問 富岡沙織先生

学校行事などで部活動への参加が遅れても、その間を外部指導員の富永先生に見守っていただけるのは非常に助かっています。また練習内容といった技術的な面に関しても、丁寧に考えて実践していただけるのは大きいですね。子どもたちにとって部活動は打ち込むものだったり、楽しむものであったりと大切なものです。色々な行事が積み重なったとしても、部活動の場は守っていきたいです。



池袋中学校バドミントン部 外部指導員 富永 聡先生

私自身、体育の教員免許を持っており、他区で講師などを務めながら外部指導員としてバドミントン部の指導にも携わっています。指導する立場で子どもたちと身近に接していく。そのなかで信頼関係を築き上げていくところに魅力を感じています。子どもたちは色々な思いを持って部活動に参加しています。私は部活動が、子どもたちに居場所であると感じてもらえるよう日々、コミュニケーションをとっています。

